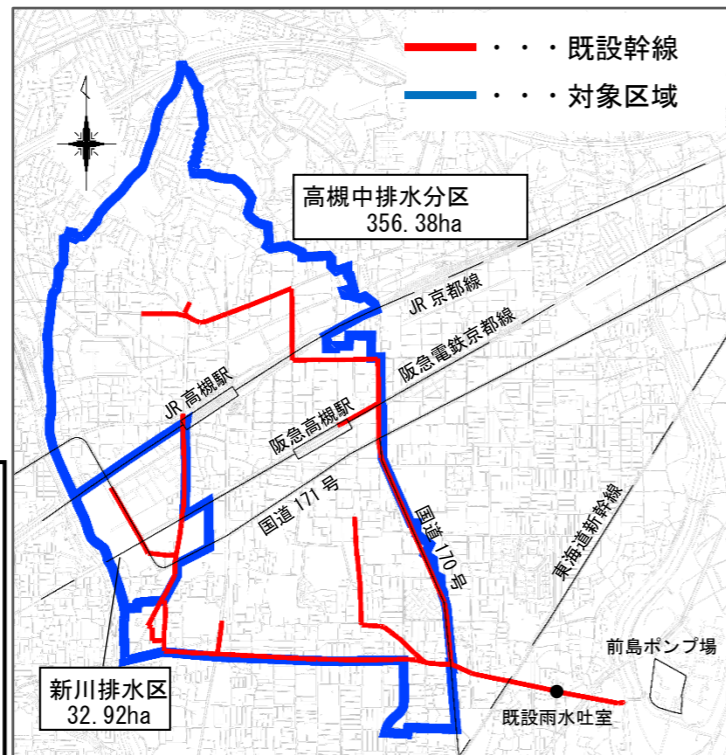


高槻中排水分区浸水被害軽減対策事業 一概要版一

1. 計画の目的

「高槻中排水分区」は駅や病院等の公共性の高い施設に加え、人口も集中している排水区となっており、地域特性から浸水被害が発生しやすく、被害も大きくなる可能性があります。また、実際の浸水被害件数や浸水シミュレーション結果からも早期に対策すべき地域であり、用地の制約から増補幹線による対策を計画しています。



【高槻中排水分区の概要】

高槻中排水分区は、356.38haの排水面積を持つ合流区域です。当排水分区は、汚水は流域下水道処理場へ、雨水は雨水吐室から前島ポンプ場へと排水しています。

図1. 対象区域位置図

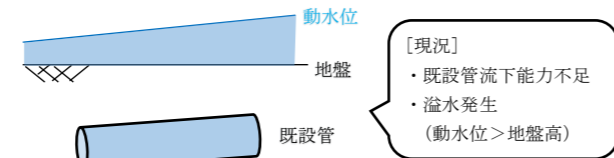
2. 段階的整備目標

当該排水分区の浸水被害軽減対策の方針として、計画の最終形である「全体計画」と、中途段階である「中期計画」それぞれの段階の整備目標を設定しています。

【中期計画】：動水位計算による増補管計画

目標：計画降雨レベルの溢水リスクの解消

- ・部分的な増補管整備（自由水面を確保）
- ・既設管は圧力状態を許容し、溢水リスクを解消

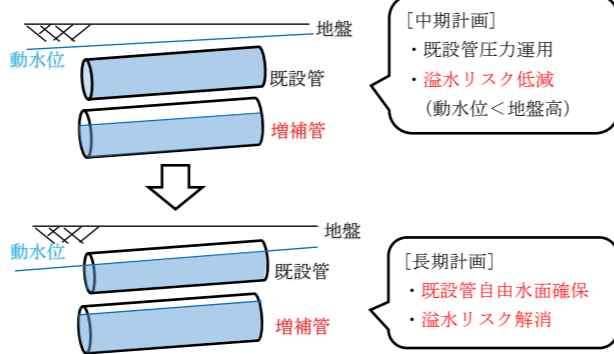


[現況]
・既設管流下能力不足
・溢水発生
(動水位 > 地盤高)

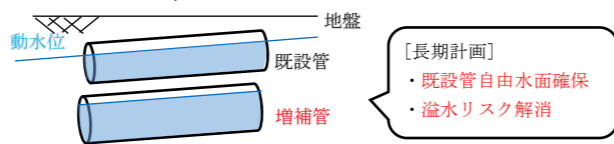
【全体計画】：等流断面計算による増補管計画

目標：既設管能力不足の解消

- ・面整備（管網整備）
- ・既設管は余裕を考慮し、自由水面を確保



[中期計画]
・既設管圧力運用
・溢水リスク低減
(動水位 < 地盤高)



[長期計画]
・既設管自由水面確保
・溢水リスク解消

図2. 浸水被害軽減フロー

図3. 整備段階別概略図

3. 増補管・分水人孔計画

整備目標に対して最も効果的な分水位置、増補管ルートを検討し、中期計画の増補管を整備します。用地確保の課題を踏まえ、国道171号、国道170号等の道路直下に増補管を整備します。また、幹線管まよが二重化されるため、大規模災害等の障害発生時にも機能不全が防止できることから、リダンダンシーの効果にも期待できます。

- 凡例
- 増補管
 - 既設幹線
 - 分水人孔

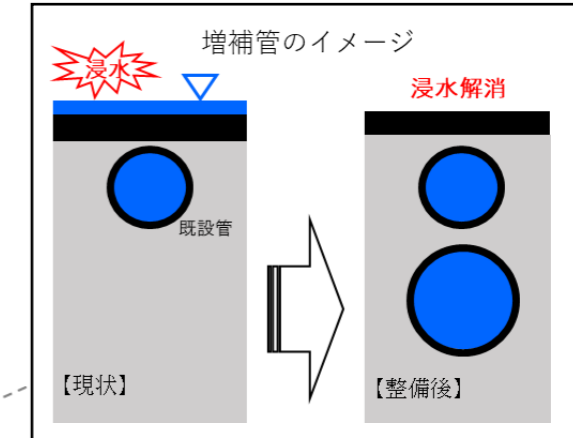


図4. イメージ図

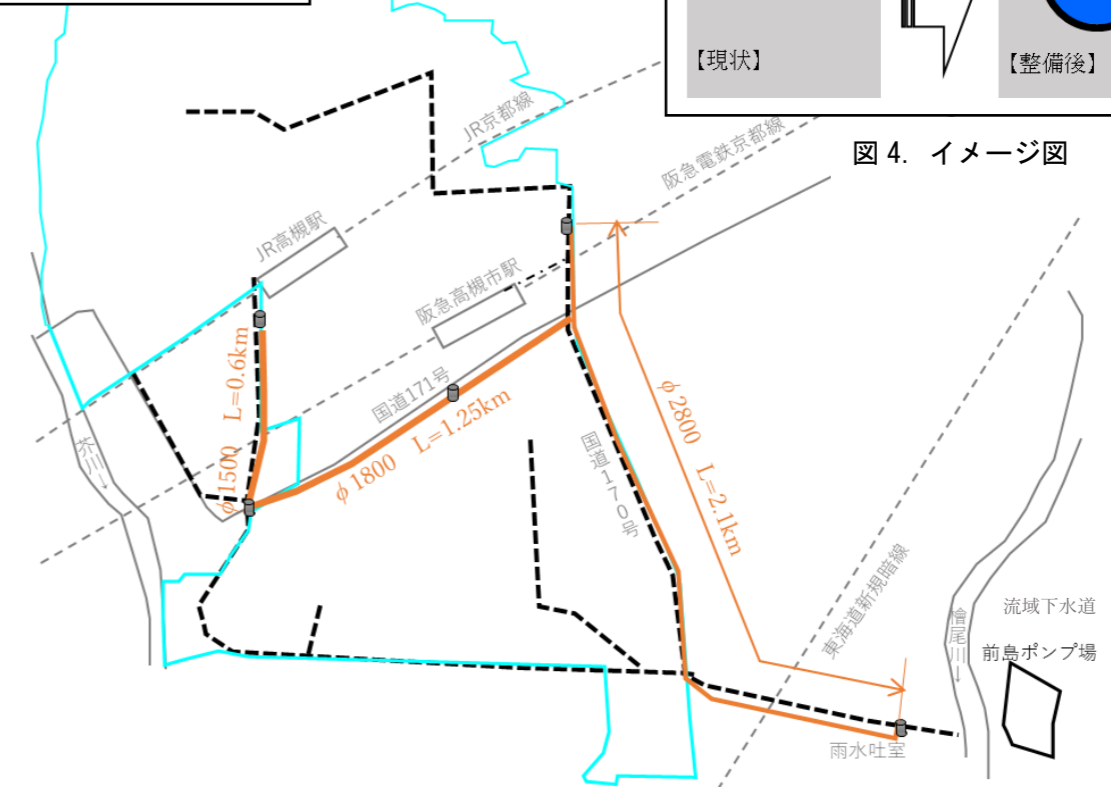


図5. 計画位置図

4. 事業期間と概算事業費と効果

中期計画の完成には工事着手から約10年かかり、概算事業費は、約90億円と見込んでいます。中期計画の完成により、下水道計画である10年確率降雨(48mm/hr)による浸水被害は大幅に減少することに加え、浸水シミュレーションでは、既往最大降雨(110mm/hr)の際、高槻中排水分区の一部において、床上浸水被害(45cm)を約7割軽減できる結果が得られております。